

令和5年度 浜松市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の進捗について

カーボンニュートラル推進事業本部

1 「浜松市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」の概要

2024年3月に改定した「浜松市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」では、2030年度において2013年度比で温室効果ガスの排出量を55%削減することを目標に設定しました。

この目標を達成するため、基本方針※1から9を定め、施設運営や公用車利用に伴うエネルギー起源の二酸化炭素や、非エネルギー起源の温室効果ガス排出量削減に取り組んでいきます。

2 2023年度温室効果ガスの排出状況（速報値）

2023年度の温室効果ガス排出量は185,863t-CO₂で2013年度比16.5%減少しました。

しかし、前年度比では、施設の運営に伴う排出量が12.0%、公用車の利用に伴う排出量が11.3%増加しました。

温室効果ガス削減状況（単位：t-CO₂）

区 分	2013 年度 【基準年度】	2021 年度 排出量	2022 年度 排出量	2023 年度		2030 年度【目標】	
				排出量 (前年度比)	基準年度比	排出量	削減率 (基準年度比)
エネルギー起源の二酸化炭素							
施設運営に伴う排出量	116, 932	87, 190	80, 897	90, 641 (12. 0%)	△22. 5%	42, 297	△63. 8%
公用車の利用に伴う排出量	2, 608	2, 332	2, 300	2, 559 (11. 3%)	△1. 9%	1, 665	△36. 2%
非エネルギー起源の温室効果ガス							
二酸化炭素	78, 802	81, 662	82, 034	71, 964 (△12. 3%)	△8. 7%	42, 553	△46. 0%
メタン	2, 439	2, 610	2, 592	2, 823 (8. 9%)	15. 7%	1, 951	△20. 0%
一酸化二窒素	21, 700	21, 771	21, 703	17, 841 (△17. 8%)	△17. 8%	11, 002	△49. 3%
代替フロン等 4 ガス分野	36	409	242	35 (△85. 5%)	△5. 5%	8	△77. 8%
温室効果ガス 排出量合計	222, 517	195, 974	189, 768	185, 864 (△2. 1%)	△16. 5%	99, 476	△55. 3%

3 2023年度の主な取組実績

市有施設のZEB化：設計8件（うち新築1件、大規模改修7件）

照明のLED化：62施設5,204台導入（LED化率44.7%）

公用車の電動化：電気自動車7台導入

再生可能エネルギー電力の調達：189施設切替

※ 削減目標達成に向けた基本方針

基本方針	内容
市有施設の ZEB 化	①施設の新設又は建替時は、ZEB Ready 以上とし、『ZEB』を目指します。 ②施設の改修時（長寿命化事業等）は原則として ZEB Ready 以上とします。
照明の LED 化	施設の照明を 2030 年度までに全て LED 化します。
屋上などへの太陽光発電設備の導入	太陽光発電設備が導入可能な施設に対し、2030 年度に 50%、2040 年に 100%導入します。
公用車の電動化	2030 年度までに代替可能な全ての公用車を電動車とします。
エネルギー転換	①重油、軽油、灯油等の化石燃料を使用している設備を改修する際は、原則として電化を進めます。 ②電化が困難な設備については、都市ガス又は LP ガスへ燃料転換することで、将来的にカーボンニュートラル燃料を導入しやすい環境を整備します。 ③電化やガスへの燃料転換が困難な設備については、バイオマス燃料や水素燃料への切り替えを検討します。
再生可能エネルギー電力の調達	2030 年までに調達する電力の 60%以上を再生可能エネルギー電力とし、残りの電力は調整後排出係数が 0.000250t-CO ₂ /kWh 程度を目安とします。
非エネルギー起源の温室効果ガス排出量の削減	非エネルギー起源の二酸化炭素、空調機器に使用しているフロン類、下水・し尿処理や一般廃棄物の処理過程で排出されるメタン、焼却や燃料の燃焼過程などから排出される一酸化二窒素について、最大限の削減をします。
カーボンクレジットの創出・利用	市内の森林や再生可能エネルギー由来による J-クレジットを活用し、カーボンオフセットします。
運用改善の精度向上	運用改善は、施設所管課で実施すべき取組みと職員個人で実施すべき取組みを分類し、PDCA サイクル(計画(Plan)、実施(Do)、点検・評価(Check)、見直し(Act))により実施します。